

# これ以上マーケットを縮小させないために

菅原 琢

今や日本人オリエンティアは絶滅危惧種。種の維持には一定以上の個体数が必要。競技者登録料値上げは自殺行為に等しい。

## 競技者登録料値上げに思う

来年から JOA は競技者登録料を値上げしようと画策しているようですが、それに対して「オリエンティアは大会参加費も含めて低価格が当たり前と思っている。登録費が上がってもやむを得ない。値上げで登録者が減っても一時的なもの」というような声も出ています(多摩 OL からは猛烈に反対する文書を都協会に出していますが)。

なんという物分りのよさ? 自分で自分の首を絞めていることに気付かないのでしょうか? 確かに、「たかだか1000円」くらいは「ぶーぶー言いながらも」既存のコアな競技者は出してくれるかもしれません。でも、コアでない人、これから始めようとする人にこの「壁」がどれほどの影響を及ぼすか考えているのでしょうか?

「一時的に登録者が減ってもすぐに回復する」という考えはあまりにも楽観的で現状分析ができていないというものでしょう。自然界と同じで、種の維持には一定以上の個体数が必要です。今や日本人オリエンティアは絶滅危惧種と言っても過言ではないのに、今、個体数(愛好者数)を減らすような施策に出たら今度こそ減少傾向に拍車がかかり、回復不能な状況に追い込まれると思います。

結果、登録料を値上げしても JOA の手元に残るお金はそう増えず、これを機会に登録をやめる人が増えるだけの結果に終わる可能性が極めて高いと思います。角を矯めて(ためて)牛を殺す、というヤツです。

JOA のことをおおい、OL 界のことをおもうなら「値上げに賛成する」のではなく、別の形で協力すべきです。即ち、空気の読めない(最近の若者コトバでは"KY"と言うそうですね)JOA の思い違いをいさめ、値上げの弊害を正しく分析するよう進言することです。

そして、1000円余分に払うことで JOA に協力したような気になるのではなく、

クラブで公認大会を開くべきです。登録制度の魅力を上げるには質の良い公認大会が多数開かれることが必要です。単独クラブでの開催が難しいならクラブ連合での開催でも良いでしょう。それをやらずして値上げに賛成する主張は受け入れ難いものです。

## CSR の欠如

CSR (Corporate Social Responsibility) = 『企業の社会的責任』というコトバが社会で認知されるようになって久しいです。優れた製品を供給しても CSR を無視して営利に走るような企業は市場で受け入れられません。今や企業は CSR やコンプライアンス(法令順守)を避けてはおれないのです。

同じように、クラブにも CSR 的視点が求められる時代ではないでしょうか。

ここでは CSR = Club Social Responsibility です。これは、「ノープレス・オブリージュ」と同義語かと思えます。ノープレス・オブリージュとは、高い地位や身分に伴って生じる義務のことです。欧米社会では、貴族など高い身分の者にはそれに相応した重い責任・義務があるとする考え方です(日本じゃ根付いていませんが... 質の低い政治家を見れば一目瞭然!?)。

私は OL 界衰退の一因に、"CSR"の欠如があると思います。楽しければいいや、だけ。結構な規模・能力なのにホスト側に回ることを避けているクラブが少なくありません。昔はもっと「お互い様」の意識が浸透していたと思います。だから大会数も(玉石混淆ではありましたが)かなり多かったわけです。それが面倒なことは避けて、(自分が)楽しく走ればいいや、という考えの人ばかり増えたらどうなるでしょうか? 基本的にボランティアベースで開催されている大会の数が減っていくのは自明の理でしょう。

JOA が東日本大会・西日本大会の開催を放棄した現在、有力クラブが一肌脱がなければ公認大会の魅力が向上することはないでしょう。今こそ"CSR"を意識すべきときではないでしょうか。

JOA の台所事情が厳しいのは承知の上ですが、単に値上げすると言っても愛好者は受け入れないと思います。す

でに相当フラストレーションがたまっているところに追い打ちをかけることになります。なぜ値上げが必要なのか、そのお金はどう使われるのか、登録者にはどのように還元されるのか、経費削減策はどうなっているのか、まで含めて値上げの議論はされるべきだと思います。

(菅原琢 多摩 OL)



菅原琢 全日本大会(北海道)にて

「角を矯(た)めて牛を殺す」とは、角の形を直そうとして牛を殺してしまうという意味で、小さな欠点を直そうとして、かえって全体をダメにしてしまうこと